No63　平成 28 年新年号

道　南

北海道道南会会報
No63　平成 28 年新年号
発　行　2016 年 1 月 1 日
発行所　北海道道南会事務局
連絡所　茨城県取手市西
1-6-C-907
TEL&FAX　0297-74-7576

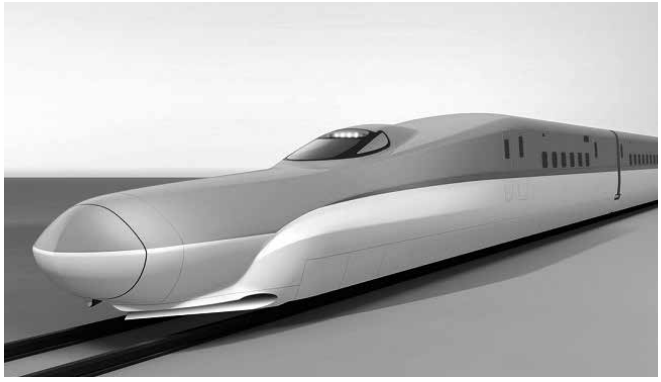
新幹線　北海道に上陸

北海道道南会会長　薬袋　泰

北海道新幹線の新青森―新函館北斗間が3月26日に開業します。いよいよ新幹線が北海道に上陸です。東京から新函館北斗駅まで乗り換えなしで約4時間の鉄道旅が実現します。この開業により、ビジネス・観光・文化等の交流が拡大し北海道経済圏に新たな希望の火を灯すことでしょう。また、北関東の埼玉・群馬・栃木の人々は新幹線利用も羽田空港から飛行機での時間も互角となるので観光等への期待は大きいでしょう。道南会では、新幹線を利用しての「ふるさと訪問旅行」をしたいとの会員の声も有り、企画を検討して行きたいと考えております。まだ先になりますが約15年後には札幌延伸が予定されていて、停車予定駅は新八雲「仮称」・長万部・倶知安・新小樽「仮称」・札幌に。

毎年東京ドームで開催される〝ふるさと祭り東京2016〟は「日本のまつり・故郷の味」をテーマに、全国から食と物販、地域のまつりが出展し、期間中40万人を超える来場者がある大型イベントです。今年は、1月8日(金)～17日(日)に開催されます。新幹線開業を間近に控えた函館の食と観光の魅力を存分に楽しめる10日間です。大型ブースでは、函館の美味しい名物の塩ラーメン、海鮮丼、スイーツなどの飲食のほかにも、オール「函館」をリアルに体感・体験できる観光PRステージ、いか釣り体験、北海道新幹線開業PRコーナーが有ります。また、「全国ご当地どんぶり選手権」は、全国各地の選抜されたどんぶりが、ご当地どんぶり№1を競う名物企画。予選を勝ち抜いた函館朝市も 函館の魅力ある食材が盛りだくさんのどんぶり「漁り火 がごめ丼」をエントリーします。お祭り広場・ふるさとステージでは、夏の一大イベント「函館港まつり」で行われている「函館いか踊り」を初披露！北海道新幹線開業でぐっと近くなる青森・弘前・八戸・函館が「青函圏」として連携して合同で、各地域の祭りや郷土芸能を披露してPRをします。1月10日(日)17時30分～18時 八戸との合同PR。11日(月・祝)11時40分～12時10分 青森市との合同PRを行います。演目は〈八戸〉法霊神楽〈青森〉津軽三味線演奏〈八戸〉お山参詣の囃子〈函館〉函館いか踊りです。道南会では、函館の身近な応援団として、多くの会員が会場に足を運んで協力したいと考えております。どうぞご協力を宜しくお願い申し上げます。

道南会の総会・懇親会は創立55周年記念祝賀会と併せて、2月6日(土)ホテル・ラングウッドで開催されます。多くの会員の皆様のご出席をお待ちしております。ホームページを駆使して、道南会を積極的にPRし、役員一丸となって多くの会員の出席を図って参ります。ご協力を宜しくお願い申し上げます。



新年明けまして　おめでとうございます

皆様お変わりなく元気に、新しい申年の新春をお迎えになられたことと、心からお慶び申し上げます。

さて、北海道道南会は昨年創立55周年を迎えました。会員の高齢化が進む中、新しい会員の増強、事業の充実等々、現在道南会の持っている課題に向けて取り組んで行かなければならない事を痛感しております。平成26年1月に開設した道南会ホームページは、アクセス数も段々と増し、これまで11名の方がホームページを見て入会されました。更なる内容の充実に積極的に取り組み、道南会のPRを推進して参りたいと考えております。

函館市便り

函館市長　工藤　壽樹

新年あけましておめでとうございます。

平成28年の新春を皆様とともにつつがなく迎え、お祝いできますことをお喜び申し上げます。

北海道道南会の皆様におかれましては、日頃から、函館市政伸展に特段のご支援・ご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

貴会におかれましては、昭和35年の創立以来、半世紀を超える長きにわたり、「ふるさと道南」を心の絆として会員相互の交流と親睦を深め、固い結束のもと、幅広い分野において活発な活動と郷土発展への貢献を続けられ、今日のご隆盛を築かれておりますことは、薬袋会長をはじめ歴代会長、役員、会員の皆様の一方ならぬご努力の賜と存じ、心から敬意を表します。

地域ブランド調査で全国1位に

さて、昨年を振り返りますと、異国情緒あふれる美しい町並みを有する函館は、民間の調査会社による地域ブランド調査において、全国1、000の市区町村の中で魅力度が2年連続全国第1位にランキングされるなど、都市としてのブランド力は多くの人が認めるところであり、上期の観光入込客数は約321万人となり、平成35年度を目標年次とする新たな観光基本計画において目標としている観光入込客数550万人に向け順調に推移しております。

特に、外国人観光客については、これまでの積極的なプロモーション活動が奏功し、4月に天津、7月に北京、それぞれ定期便が開設されたことに加え、引き続き函館―台湾線も好調であることなどから増加しており、上期の外国人宿泊者数は過去最高の約18万3千人となりました。

グルメサーカス

函館アリーナ　メインアリーナ

さらに、本年度は、中国、タイ、台湾へのトッププロモーションを実施したことに加え、中国から旅行関係者を招請するPR事業、海外での旅行博、商談会へ出展し、外国人観光客の誘致を促進してまいりました。

函館アリーナとフットボールパーク

また、8月には、「函館アリーナ」と「函館フットボールパーク」がオープンいたしました。「函館アリーナ」においては、オープンを記念し、GLAYによるこけら落とし公演が実施されましたが、その後、早速、約1、100人が参加した全国中学校柔道大会、約3、600人が参加した全国自治体病院学会など、大規模コンベンションが開催され、今後も一定期間の長期滞在が見込める各種学会や大会などMICE事業の推進を図ってまいります。

函館フットボールパーク

9月には、函館最大級のグルメイベント「はこだてグルメサーカス2015」を開催し、これまでで最大の18万6、000人のご来場のもと、大盛況のうちに終了することができました。

中心市街地の活性化事業とクリスマスファンタジー

函館駅前から五稜郭までの市電沿線地域である中心市街地の活性化事業につきましては、引き続き、函館駅前の旧和光ビル跡地では「キラリス函館」と愛称が決まった再開発ビルが建設中であるとともに、本町の旧グルメシティ五稜郭店跡地では、複合ビルの建設が進められており、さらには、同地区で民間事業者がフードコートやサテライトスタジオを備える複合飲食施設「五稜郭ガーデン」が完成し、これらが中心市街地の新たな名所となる予定であります。

はこだてクリスマスファンタジー

そのほか、昨年は、デザイン性に優れた函館駅前電車停留所を整備いたしましたが、新たに、五稜郭公園前電停が完成したほか、函館駅前通についてはアーケードが撤去され、新たな街並みの整備が進んでおります。

11月28日からは「はこだて冬フェスティバル」として、今年も姉妹都市であるカナダのハリファックス市から贈られたモミの木が、冬のベイエリアに巨

大なクリスマスツリーとして輝く「はこだてクリスマスファンタジー」や、函館駅前から開港通り、歴史的な建物が建ち並ぶ元町地区などがイルミネーションで輝く「はこだてイルミネーション」などを実施しております。

間もなく新幹線が開業

さて、本年は、待望の北海道新幹線が、3月26日にいよいよ開業し、新しい時代の幕開けと捉えております。今後はさらなる観光客等の増加も期待されるところでありますが、交流人口の増加は、まちに賑わいをもたらすだけではなく、様々な分野の消費拡大に繋がり、地域経済の活性化に寄与できるものと認識しております。

開業に向けた取り組みは着々と進んでおります。お笑い芸人のサンドウィッチマンが出演する北海道新幹線開業CMが公開されたほか、北海道新幹線開業PRソングは函館出身のロックバンド「GLAY」に制作していただき、そのPRソングをBGMとした北海道新幹線特任車掌鈴井貴之さんが出演する開業プロモーションビデオが12月中旬から北海道内で放映されております。

はこだてクリスマスファンタジー

市内においては、新幹線を利用した誘客を促進するため、官民連携組織である「北海道新幹線新函館開業対策推進機構」が、「ようこそ！はこだてへ。」をキャッチコピーに掲げた啓発ポスターや街頭フラッグを各所に掲出し、PR活動に努めているほか、函館市新幹線開業記念イベント実行委員会により、開業時はもとより、開業前および開業後にも記念イベントを開催することとしており、開業に向けた機運の醸成を図り、あわせて賑わいを創出するとともに、地域の魅力を広く全国に発信し、交流人口の拡大を図ってまいります。

また、開業を控え日胆地域・東北・関東から函館との連携を望む声を多くいただいており、函館に注目が集まっていると実感しているところでございます。本市としては、今月、全国から伝統ある祭が東京ドームに集結する「ふるさと祭り東京」などにおいて、各地域と交流・連携してまいりたいと考えておりますが、特に「ふるさと祭り東京」においては、道南会の皆様の御協力も賜り、「はこだていか踊り」でお祭りを盛り上げていただきますことに、厚く御礼を申し上げます。

青函圏で広域観光を推進

このほか、来年度には、新たな観光圏を確立するため、青森市、弘前市、八戸市と函館市の4市で設立した「青函圏観光都市会議」による都市間連携をさらに強固なものとし、青函圏の魅力を高めるとともに、各地域の観光資源をパビリオンに見立てた「青函圏周遊博」を開催いたします。

五稜郭公園前電停・どっく
谷地頭方面行き

また、青森県および道南、日高・胆振、ニセコエリアの自治体と連携した「青函圏・みなみ北海道連絡会議」において、各地域のイベントや新幹線開業施策等の情報を集約し、一元的に共有・発信するとともに、各地域のイベントやプロモーションにおいて連携を図り、青函圏、南北海道の広域観光を推進してまいります。

今後におきましても、北海道新幹線開業というこの絶好の機会を逃すことなく、開業効果を最大限享受できるよう取り組んでまいりますので、皆様方のより一層のお力添えをお願いいたします。

結びに、北海道道南会のさらなるご隆盛と会員の皆様のますますのご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げます。

五稜郭公園前電停・湯の川方面行き

函館アリーナ　外観

グルメサーカス

北斗市の最近の動向について

北斗市長　高谷　寿峰

新年あけましておめでとうございます。

輝かしく、希望に満ちた、平成28年の新春を皆様とともに迎え、お祝いできますことを心からお慶び申し上げます。

北海道道南会の皆様におかれましては、日ごろから南北海道の発展並びに北斗市勢の伸展に多大なるご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

北海道道南会は、半世紀を越える永きにわたり、ふるさとを絆とし各界各層において、幅広い分野で活発な活動を展開され、ふるさとの発展に多大な貢献を続けられていることに対しまして、深甚なる敬意を表します。この度、薬袋会長様のご厚意により、北海道新幹線開業に向けた北斗市の取組みなどをPRする機会を与えていただき、誠にありがとうございました。早速ではございますが、誕生から10周年を迎える北斗市の近況につきまして、紹介させていただきます。

北斗市誕生10周年

北斗市は本年、誕生10周年の記念すべき年を迎えます。当時、様々な特例措置を設けた市町村合併の取組みが、国によって推し進められる中、基礎的な自治体を広域化することによって行財政基盤を強化し、地域主権の推進に対応していくことが、地域の将来や地域住民のためには、最善の策であるという考えのもと、平成18年2月1日、当時の上磯郡上磯町と亀田郡大野町が新設合併し、道内35番目の都市として誕生いたしました。これまでの10年間、市民の一体感の醸成、人心の融合融和のための諸施策に全市を挙げて取り組み、市民の方々からは、市政運営に対する深い御理解と温かな御支援を賜り、本市は、輝かしい未来に向かって、順調にまちづくりが進展しております。

北海道新幹線の開業

本年、いよいよ北海道新幹線が開業します。東海道新幹線の開業から実に半世紀以上の歳月を経て、北海道にとっての悲願であった新幹線時代がいよいよ幕開けしようとしております。

新函館北斗駅

本市が実施しております新函館北斗駅周辺地区の土地区画整理事業や立体駐車場、北斗市観光交流センターなどの公共施設の整備は、すでに全ての工事が完了し、昨年実施した新函館北斗駅の見学会には、開業前の駅構内を見学できる貴重な体験になるということで、全道各地からたくさんの応募があり、抽選で選ばれた方々に、一足早く新しい駅舎の雰囲気を体感し、新幹線開業を間近に感じていただき、また、1月の下旬からは、北海道新幹線の試乗会も開催される予定となっております。

新駅周辺地区への企業誘致は、レンタカー会社の事務所や地元産の新鮮な野菜を使うファームレストラン、子育て支援向け道営住宅などの建設工事が進み、さらに1月には、新駅に隣接する市有地にホテルや飲食店などの複合型商業施設の建設工事も始まる予定です。この商業地は、新幹線開業効果を最大限に引き出すため、本市にとっての最重要課題として、これまであらゆる可能性を探りながら、様々な誘致活動を展開してまいりましたが、昨年夏、地元経済界の有志の方々が主体となり、飲食店や大浴場施設などを有する地上6階建、客室数100室、収容人数約300人という大規模なホテルの建設計画が決定いたしました。新幹線を利用するビジネス客や観光客の方々にとっての利便性は極めて高まるものと思いますし、本市が誘致活動に力を入れているスポーツ合宿の受入れ先としての需要も予想され、さらに、この商業施設の建設を受けて、今後、新駅周辺地区への新たな企業の進出にもつながるものと大変期待しております。

また、この施設の1階フロアは、新函館北斗駅内の北斗市観光交流センターを補完する公共施設として活用していくこととしており、賑わいの空間を創出するため、道南の特産品を販売するアンテナショップや、新鮮な地元食材を使った料理を提供する飲食店など、駅利用者の憩いのスペースとして整備していきたいと考えております。

さらに、こうした新幹線開業に向けた機運の高まりは、市民による自主的・自発的な活動としても広がりを見せてきております。北斗市出身で昭和の歌謡界を代表する大歌手であります三橋美智也さんのファン組織「みちや会道南支部」では、三橋美智也さんの功績を後世に伝えたいという想いから、市民をはじめ全国のファンの方々のご賛同をいただき、新函館北斗駅西側の公園内に、「三橋美智也生誕の地記念碑」が建立されたほか、昨年の北斗市夏まつりでは、市内の商工会や農協、漁協の各青年部が中心となり、「北斗」つながりを利用して、人気漫画「北斗の拳」に登場する「黒王号」の等身大模型を誘致し大変話題を呼びました。現在、新駅駅舎内に「北斗の拳」に関連するモニュメントの設置などを目指しているところで、北斗市の知名度アップや魅力発信のための取組みが、市民主体で活発に行われておりますことに、大変心強く感じております。

観光振興の取り組み

北海道新幹線開業により、新函館北斗駅と新青森駅は1時間で結ばれることとなり、津軽海峡を挟んで100万人の人口規模を持つ経済圏が形成されることとなります。

この新たに形成される経済圏では、圏域内での経済活動が活発化し、さらに、人口230万人

の札幌圏と１５０万人の仙台圏の結節点となることから、ビジネスや観光などによる交流人口が飛躍的に増加し、多くの産業分野で様々な好影響が現れるものと期待されますので、新幹線開業による経済効果を地域全体が最大限に享受できるよう、広域的な連携強化を図りながら新幹線時代にふさわしいまちづくりを進めているところです。

平成24年を本市の「観光振興元年」と位置付け、北海道新幹線開業に向けた観光振興に力を入れ始めてから4年が経過し、この間の重点的な取り組みがソフトとハードの両面において着実に芽を出し始め、目に見える形となって成果を上げてきております。

まず、「桜回廊」として整備を進めてきた法亀寺のしだれ桜や松前藩戸切地陣屋跡の桜並木など市内の桜の名所には、昨年は、約10万人の方々にお越しいただき、ライトアップによる幻想的な夜桜の情景を堪能していただきました。

松前藩戸切陣屋跡に向かう 800m の桜トンネル

また、これまで北斗市観光の核として整備を進めてきたきじひき高原には、昨年春、天候に左右されずゆっくりと北海道らしい景観を楽しめる屋内展望施設がオープンし、昨シーズンは約７万人の方々に南北海道一の眺望をご覧いただきました。この施設内には、観光情報の案内機能を持つ大型ディスプレイを設置し、悪天候による視界不良時でも、ディスプレイに映された晴天時のパノラマ眺望をご覧いただくことで、実際のライブの眺望を見にもう一度来たいと思わせるような仕掛けを講じ、トイレや簡易な台所も設けておりますので、各種イベントの開催にも活用できるなど、観光拠点としてその魅力を十分に発揮できるものと期待しております。

法亀寺のしだれ桜

さらに、トラピスト修道院へと続く並木道は、地元の町内会が中心となり「ローマへの道」と名づけ、クリスマスにはアイスキャンドルで飾る催しが実施されておりますが、この市道をノスタルジックな景観に調和した石畳風の舗装に改良し、訪れる観光客の方々が、そこを歩くだけで心地よく感じ、いつまでも記憶に残る名勝地となるよう整備するなど、既存の観光資源を活用した北斗市固有のおもてなし準備を進めております。

きじひき高原

国際観光都市として５００万人もの観光客が訪れる函館市や、全国的に有名な景勝地の大沼公園を有する七飯町に突として肩を並べることは、到底及び難いことですが、これまで気付かれていなかった地域固有の資源を観光に活用し、体験型・交流型の要素を取り入れた旅行形態であるニューツーリズムに取り組んでいくことで、北斗市らしさを強調しながら、リピーター獲得につなげていくとともに、新幹線で北海道を訪れる観光客が最初に降り立つ地として、北海道らしさを満喫しながら、次の目的地へと送り出すことが北斗市の重要な使命であると認識しております。こうしたことから、新函館北斗駅には、道南地域の観光案内や地場産品の販売を行う北斗市観光交流センターを開設し、北斗市観光協会が、施設の管理運営にあたることが決まっており、民間の知恵とノウハウを活かした積極的な事業展開がなされるものと期待しております。

「北斗おもてなし祭」

北海道新幹線の開業日であります本年３月26日からは、新駅西側の公園を会場に開業記念イベント「北斗おもてなし祭」を開催いたします。北海道新幹線の開業を祝い、訪れる多くの観光客の方々に北海道ファンとなっていただけるよう、本市をはじめ道南の食を中心にしっかりとアピールするため、会場内の「北斗うまいもん振る舞い広場」では、ほっき寿司や牡蠣の浜焼きなど本市の特産品メニューを無料で提供し、おもてなしすることとしております。イベント開催期間中のステージでは、道南地方の郷土芸能や観光ＰＲ、来場者参加型のステージショーなど多彩な催しで盛り上げたいと考えております。道が主催する開業記念イベントで、全道の特産品やご当地グルメが大集結する「ウェルカム！北海道ヴィレッジ」も同時開催されますので、多くの方々にお越しいただき、北海道の食を堪能し文化に触れながら、北海道新幹線開業の喜びを満喫していただきたいと存じます。

むすび

北海道新幹線の開業により、首都圏にお住いの皆様と道南地方の距離がより一層近づくこととなり、皆様にとりましては、道南地方への里帰りがより身近なものになることと思います。市民一同、皆様のお越しを心からお待ちしておりますので、なつかしの名所や特産品をご堪能いただき、北海道道南会の皆様を通して、こうした北斗市の魅力が全国に発信されるようお願い申し上げますとともに、北海道道南会のさらなるご隆盛と、会員の皆様のますますのご活躍、ご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

はこだて人物誌⑪
若山惣太郎・徳次郎

道南会会員　沢株　正始
幸小学校出身

元町の公会堂から函館山ロープウェイ乗り場に歩き東本願寺を左に見て二十軒坂をバス通りまで下ると、創業135年の歴史を誇る西洋料理店「五島軒」の瀟洒なたたずまいが目に入ってきます。

函館で最も上等な洋食店として今では誰もが知っており、名物のカレーライスやロシア料理だけでなく、フランス料理のフルコースも併設のレストラン雪河亭で楽しめます。レトロな建物だけでなく、そもそもの出発がフランス料理だったことは五島軒の売りとなりましたが、このことが広く知られるようになったのは、おそらく船山薫の名作『葦火野』が一つのきっかけになったのではないかと思います。作品は当初『朝日新聞』に連載され、すぐに朝日新聞社から単行本化されました。

幕末の開港地として発展する箱館を舞台に繰り広げられた五稜郭戦争を背景に、フランス料理のコックを目指す河合準之助とおゆきの、日仏両国にまたがる波乱に満ちた生涯を描いた小説です。昭和48年の刊行とやや古い作品ながら、旧幕軍とフランス将校の関係や戦闘の修羅場のなかで傷病兵の手当や看護に奔走する医師・高松凌雲らの奮闘もリアルに描かれており、また函館病院の分院とされた高龍寺（当時の所在は現弁天町）における惨状の描写も鮮烈です。

昭和10年9月に建てられた本店

この本の末尾は、主人公「準之助とおゆきの青春を秘めた函館基坂下の雪河亭は、現在寛から数えて三代目に当る……味は飛びきり値段は手頃、という準之助の夢は、店の名とともにいまも生きている」と締めくくられていますが、雪河亭という命名は、函館にフランス料理の「ちんまりした」店をつくるのが夢だった若いカップルの名前から生まれました。「お前とおいらの店だから、雪に河と書いてせっかと読ませる。雪河亭てえんだ」「雪河亭……」「北の国の雪の降る日の河の姿だ。静かで深くて、ほんのちょいと粋で……」。そして準之助のイメージは続きます。「大きな構えでも、派手な店でもねえが、フランス料理なら函館に雪河亭てえ家がある。値段は手頃だが、味は飛切りだ。人様がそう言ってくれるような店なんだ」。

フィクションと歴史的事実を巧みに結び合わせた名著が五島軒をいっそう引き立てたと言ってもいいでしょう。

なお『葦火野』は平成3年に森繁久弥主演で舞台化されています（帝劇）。

「五島軒」の名前の由来

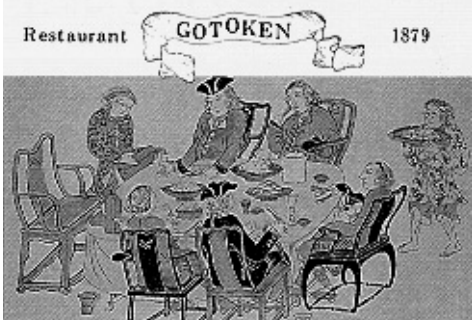
さて、この雪河亭の名を今に残す五島軒の歴史は明治12年に始まります。創業者は埼玉県鴻巣の医者の家柄であった若山家の出で、江戸蠣殻町で米問屋を開業した忠蔵の長男・若山惣太郎。安政2年（1855）の生れです。

家督相続後、米相場に手を出して失敗しますが、再起を期して明治11年津軽海峡を渡って来函、12年に富岡町（現在の大町）でパン屋を始めます。元々のハイカラ気性に加えて、食器や洋酒を取引きする友人がいたことがきっかけのようです。そして同年パン屋から転じ、当時の繁華街旧桟橋前で「五島軒」の名のロシア料理店を開きました。函館には古くから洋食屋があったようで、慶應年間にはアメリカ風のバーもあったとの記録が残っているとか（二代目徳次郎氏の証言）。

若山惣太郎氏

このときロシア料理とパン作りをすすめてくれたのは長崎奉行の通詞（通訳）をしていた五島（ごしま）英吉という人物で、五稜郭戦争の残党でハリストス正教会にかくまわれていたのですが、惣太郎とは気が合ったらしく、英吉が五島（ごとう）列島の出身であったことも合わせて店の名前がつけられたといわれます。

惣太郎がパンの作り方をどこで習得したかは、二代目の妻・フサの話などもありますが、あまりはっきりはしません。ただ、幕末期の箱館周辺は日本唯一の西洋野菜生産地であり、安政年間には奉行がジャガイモ生産の指導を行っていた記録もあり、惣太郎は採取した野生のホップやジャガイモでパン種を作り、自分で育てていたとも伝えられています。



五島軒　1879年（明治12年）

ともあれ、当時の五島軒のパンは非常に好評だったそうです。外国船からの大量注文があったりして、東京・横浜・神戸などにまで荷造り配達で毎日忙しかったという、前記フサの回想もあります。

しかし、当時の函館人の嗜好はロシアよりも、どちらか

と言えばフランス風であることが分かってくると、明治19年フランス人のコックを呼んで、末広町15番地八幡坂下にあらためて西洋料理の店を開きます。このときの開店広告が4月の『函館新聞』に掲載されており、料理には新鮮な肉を用い、フランスへ洋行して先ごろ帰国した、という口上に加え、上食一人前50銭、中食25銭、パン1斤8銭というメニューまで載っています。

この再出発に際しては資金調達や仕入れ関係などいくつかの問題がありましたが、東京の亀屋鶴五郎商店や灘の山邑酒造、函館の森亀山田精肉店などの支援をうけて開店できたと記録されています。

新しい商売は、英国領事館の催事や明治29年設立の函館船渠会社の進水式祝賀会の出張出前サービスなどをはじめ次第に忙しくなっていきました。しかし順風満帆の運営が続いたわけではありません。

若山徳次郎氏

函館名物とまでいわれた大火で五島軒は何度も被害を受けます。明治29年、40年、大正10年、昭和9年の大火で店は全焼し、その都度移転や再建を繰り返した歴史はネット版「五島軒　創業135年の歴史」などにも詳しく書かれています。ちなみに現在の三階建ての建物は昭和9年再建のときのもので、現在この本館は国登録有形文化財に指定されています。

苦難の歴史

大正6年に惣太郎が没し、明治11年生まれで、東京の帝国ホテルで修業していた二代目徳次郎が跡を継ぎます。料理人に対して非常に進歩的で合理的な考えの持ち主だったといわれる、この二代目の修業がその後の五島軒の発展に大きく貢献しました。すでに横浜に隠居していた五島英吉は毎年夏に来函し、かつての教え子でもあった二代目を励まし、情報を伝えており、東京修行も英吉のすすめだったといわれています。徳次郎のときに小樽に支店を出しますが、これは3年ほどで閉鎖されます。

昭和13年徳次郎が東京で急死し長男が三代目を継ぎ、徳次郎を襲名しました。この頃の五島軒の経営はきわめて厳しく、倒産寸前だったとも言われています。三代目は16年に出征しますが、直後、時代の風潮で西洋料理の営業禁止処分を受けました。19年に帰国すると三代目は軍服姿のまま警察署に乗りこんで、処分を解除させたものの、さらに昭和20年の敗戦後、本店が米軍に接収され、市民会館を借りて営業を続けるという苦境が25年まで続きました。

このような苦難の歴史を重ねて今の五島軒があります。駅前「拓銀」ビルや市民会館、イトーヨーカ堂函館店などに出店を設け、市役所新庁舎に喫茶店を出店するなど営業を広げ、昭和57年に法人化して株式会社となりました。そしてレストラン雪河亭を開設し、メモリアルホール「葦火野」を本館内に新設したのは59年のことです。60年に三代目が会長となり、四代目直が社長に就任し、今に至ります。

本店旧館が邦登録文化財に
北海道第一号に指定される

平成になってからの五島軒については前記「135年の歴史」などに詳しいので、概略のみ記しますが、平成3年ビアレストラン「ビアアベニュー・ハートランド五島軒」開設、5年と7年に上磯に第一工場（洋菓子・カレー製造）、第二工場（レトルトカレー製造）建設、14年東京営業所設立、19年に五稜郭タワーアトリウム2階にカレー専門店「函館カレーEXPRESS」出店などと発展を続けています。

雪河亭について補足すると、昭和63年にレストランは「雪河亭ラウンジ」と改称されますが、本館一階にはメモリアルホール「葦火野」が作られ、直筆原稿や佐藤忠良の挿絵、また創業の頃に使用した洋食器、調度品、絵画など、貴重な資料が多数展示されています。

さらに幕末の箱館に入港した外国船をまねて、船大工の続豊治が作った洋式帆船「箱館丸」のスケッチも展示されており、当時の技術水準の高さを知ることもできます。

ところで現在、五島軒の総料理長は14代目で女性とのことですが、ヒロインおゆきがこれを知ったらどんな感慨を抱くことかと想像してみるのも一興でしょう。

〔参考資料：「ステップアップ」Vol.54,Vol.239、『はこだて―自然と文化』第7号・第10号、『高龍寺史』、ウエブマガジン「カムイミンタラ」116号〕

現在の五島軒

函館の個展を終えて

今井　雅子

昨年夏、道南会会報に案内を掲載いただいた、函館で3度目になる個展を盛況のうちに終えることができましたことをご報告いたします。

絵画を学ぶべく東京の大学に進学し、生まれ育った函館の街を離れて30年。卒業後はベルギーへ留学し、主にヨーロッパで取材した風景画を制作、活動の場を東京に置いて個展を開催してまいりました。

長年、東京で制作を行う中で、かねてより故郷の方々に自分の作品をご覧いただけたらという思いが募っておりましたが、函館駅前の棒二森屋デパートで4年前より3度にわたって個展を開催し、数多くの函館の皆様にお越しいただけたことは、函館を故郷とする私にとって、大きな転換点をいただけたと感謝しております。

これまでの2回の個展では、心の中にあった懐かしい函館の風景を描いてきました。毎日眺めて天気を確認した函館山、希有な地形がもたらす函館の美しさ、遠い山並みに立ち誇る駒ヶ岳、刻々と色を変えるカモメが鳴く海、日本風西洋建築の歴史ある街並みの佇まい。函館の街をスケッチして歩き、描くたびに函館はかけがえのない故郷という思いが一層強くなります。

2015年夏「今井雅子展」を終えて

3回目となる昨年の個展では、今まで行ったことがなかった近郊を取材して、きじひき高原や法亀寺のしだれ桜など、北斗市を描いた作品も制作しました。ご覧になった市内在住の多くの方々からは「今まで函館ではよく知られていなかった場所」「どこにあるのかよく分からない」などのお声が多くありました。私も近郊のことは詳しくなかったのですが、今まで知らなかった所へスケッチに行き、函館・道南の素晴らしい風景と出会えることにワクワクしています。

美しい土地に生まれたことに感謝し、これからも見たことがない場所や、季節・時間の変化で様々に見せてくれる故郷の表情を描いて、皆様に個展会場でご覧いただけたらと思っております。今年、12月には、東京・京橋で個展を予定しております。ぜひ、次回はギャラリーへ足をお運びいただけたら幸いです。

松田　昇顧問からの近況報告

弁護士の松田昇さん（81）は検察官時代、歴史に残る疑獄事件を手がけたことで知られる。ロッキード事件では田中角栄元首相を任意同行し、リクルート事件では捜査を指揮した◆松田さんが、金融機関の破綻処理を担う預金保険機構の理事長に就任したのは、1996年6月。住宅金融専門会社（住専）が破綻し、金融危機が迫る中、「有事」の舵取り役を期待されての起用だった。◆同じ年、預金者保護のために民間金融機関が積み立てる預金保険の料率が大幅に引き上げられた。松田さんが理事長を務めた8年間、銀行の破綻が続く◆機構がきのう、保険料率を0・084％から0・042％に引き下げることを決めた。引き下げは初めてという◆2010年の日本振興銀行を最後に、つぶれた銀行はない。料率引き下げは、金融システム安定の証左だろう◆ただ、バブル期のずさんな融資が不良債権化し、金融危機を招いたことを忘れてはなるまい。「平時」の今、各銀行には改めて、地に足の着いた経営を望みたい。

（読売新聞・2015年3月28日夕刊〝よみうり寸評〟より転載）

あけましておめでとうございます

朝倉　敏夫　安達　昌子　石戸　六男
泉　龍夫　小山　光　金谷　忠勝
金谷　博治　金子　公彦　川瀬　俊吉
川守田孝平　川守田礼子　神山　茂郎
小崎みつる　小島　幸子　小助川昭一
小谷　泰三　小林智恵子　小山　和彦
郷内　繁　酒井　哲美　佐々木静子
佐々木俊克　沢株　尚子　沢株　正始
澤出　重雄　島田　瑞子　新谷　義克
末永　昌子　菅原　大作　須藤　珠実
高橋　厚子　高橋　順吉　田辺　鶴瑛
田沼　修二　続　薫　続　好子
富岡　信夫　土井　眞一　豊田　利雄
中村　隆俊　中山　泰誇　長島　康
納代　鉄也　新山　春一　沼崎　貞良
沼崎　茂子　根来美和子　英　慶子
花巻　省三　濱　光徳　比嘉　裕子
檜森　兄元　福地　史人　古井　勝春
松田　州平　松田　昇　薬袋　泰
三村　寿雄　山田　克明　山田トミ子
山本　久子

北海道道南会
会員プロフィール

ここ数年にご入会いただきました新入会員の皆さまにプロフィールをご執筆いただきました。
ご紹介いたします。

（五十音順に掲載）

池田さなえ

函館市花園町で出生。遺愛女子高等学校卒業。高校在学中からビクター公認歌謡講師の母の圭子に歌を師事。上京後「忘れ方をおしえて」でデビュー。函館観光大使を任命され、故郷応援ソング「函館ステップ」を発売。現在は、都内を中心にライブ活動やイベントにて歌唱出演中。私自身もビクター歌謡講師資格を取得し、後輩も育成中。サードシングル「明日のわたし」も発売しています。歌で沢山の人々を元気に、笑顔にしたい！を目標に邁進中です。

鈴木　一弘

昭和16年、大野町（現・北斗市）生まれ。大野中学校時代、陸上競技において、短距離100・200㍍で渡島地区の新記録を樹立。函館工業高校機械科に入学。昭和33年甲子園出場。高校卒業後、道内の社会人野球（ノンプロ）で8年間野球漬けの生活を送る。その後、東京でデザイン会社に就職。38歳の時（株）アドヴァンス企画を設立。銀座有名店24社のデザイン、施工、遠藤波津子美容室のブライダルも受注した。会社は3年前、社員に譲り、現在企画、HD会社2社の相談役を、NPO法人投資家協会にも参画。

田辺　鶴瑛

講談師の田辺鶴瑛です。八幡小学校から松川中学を経て遺愛女子高・札幌藤女子短大別課卒。昭和30年生まれの今年還暦です。遺愛の島田瑞子大先輩に見いだされ道南会に入会させていただきました。33歳の時に見た夢のお告げ？で講談師田辺一鶴に入門しそれから27年になります。真打に昇進しましたが、まだまだ未熟で、皆さまに助けられて生かされていると痛感しています。還暦の今年から小説を書くという挑戦をはじめました。

続　好子

昭和22年横浜市磯子区岡村で生まれる。横浜学園高校を卒業し、松下電器（株）に入社。営業部に配属され、営業が全国に出張後の営業支援で大忙しでした。しかし、出張帰りに各地のお土産を買ってきてくれるのが唯一の楽しみでした。昭和44年に結婚。昨今は、3人の息子の孫（1男・4女）に会うのが、楽しく元気の基です。昨年、主人に誘われ道南会に入会。55周年記念旅行や懇親会に出席し、皆様の函館弁をお聞きし、函館のお姉さんを思い出しています。

中村久美子

昭和20年今金生まれ。今金小入学。谷地頭小、遺愛中高校、明治学院大学社会福祉学部卒業。指導員として児童養護施設に勤務。結婚して大阪豊中市に住むが、その後東京在住。長女は函館市生まれ。現在は、配食・会食・デイ・居場所などのサービスを提供するNPO法人に所属。社会福祉協議会の居場所や有志で立ち上げた居場所にも関わっている。心理相談員として、傾聴・カウンセリング、社会福祉士として成年後見人の活動などをしている。5年ごとの函館訪問が楽しみです。

三品真紀子

昭和20年、上ノ国町生まれ。38年に上京し、親戚の元に就職。右も左も分からないまま今までを振り返って見て、懐かしく思います。現在松戸に在住して50年以上になりますが、地域の皆様とサークルなどで友好活動をして楽しんでいます。

山平　匡人

昭和32年函館市船見町生まれ。弥生小入学。小4の時、父の転勤のため、八雲町に転居。八雲小、八雲中卒。函館中部高校卒。その後、東京での予備校時代を経て、早稲田大学教育学部社会科社会科学専修卒。卒業後政党事務所職員、公益財団法人職員を定年前に退職し、現在は高齢者社会福祉事業会社のコンサルティング業に従事しています。函館山の麓で生まれ育ったので函館港に出入りする青函連絡船を朝な夕なに我が家から眺めていました。それが私の原風景です。

北海道道南会　顧問・相談役会

11月27日（金）午前11時30分より、東京・銀座「梅の花」で、松田昇・新谷義克・郷内繁・沢株正始・南谷光一顧問、沼崎貞良相談役、新山春一会計監査、薬袋泰会長、島田瑞子・三村寿雄副会長などが出席して顧問・相談役会が行われた。

島田副会長の司会で、最初に薬袋会長が「2015年度の行事や幹事会の開催、会報の発行、ホームページのアクセス数の増加、2016年度新年総会・懇親会と創立55周年記念祝賀会の開催、〝ふるさと祭り東京〟の際の函館イカ踊りへの函館市からの参加要請」などについて報告した。

この後、若年層への新規入会の勧誘対策、決算内容で次年度への繰越残高が少ないこと、新幹線の開業とふるさと訪問旅行の企画などについて意見交換が行われた。

平成27年度 夏季懇親会

北海道道南会恒例の夏季懇親会は、9月5日（土）正午より荒川区東日暮里のホテルラングウッド・鳳凰の間で、来賓・ゲスト・会員合わせて96人が参加して行われました。

この日の東京は、気温が29度の薄曇りで、猛暑が続いた夏が過ぎ去り、秋の気配が感じられる一日でした。島田瑞子副会長の司会で行われ、最初に薬袋泰会長が「今年は、北海道道南会の創立55周年。これを記念して5月24日から3日間、24人が参加してふるさと訪問旅行を実施し、函館市の関係者との懇親会を行った他、八雲町や銀婚湯、大沼公園などを訪ねたほか、工藤壽樹函館市長を表敬訪問するなどをしました。今後の予定としては、11月に小石川後楽園での紅葉狩りと食事会を企画しているのでご参加をお願いしたい。また、来年2月の新年総会・懇親会では、55周年記念式典を行います。多くの方々のご出席をお願いしたい。本日は、ゆっくりとおくつろぎいただきたい」とあいさつしました。

この後、2月の総会で新しく顧問に就任された南谷光一氏と沢株正始氏を紹介しました。続いて、7人の新入会員の皆さんには入会記念品が薬袋会長より贈られました。そして、乾杯の音頭を取られた松田昇顧問は「母校の函館湯ノ川中学校を訪問した際に、生徒が吹奏楽演奏で歓待してくれた。終わりに全員で校歌を合唱したが、懐かしく思わず涙がこぼれた」とエピソードを話した後、「道南会の一層の発展と皆さんのご健勝を祈念して」とグラスを上げて懇談に移りました。

会場内には、函館と大沼公園の観光ポスターが多数貼られて雰囲気が盛り上げられ、会場内の各所では懐かしい函館弁の会話が飛び交い、皆さん会話が弾んでおられるようでした。

この日の料理は、中華料理のフルコース。ビールや紹興酒、ワイン、日本酒、ウィスキーなどの飲み物と一緒に料理を楽しみつつ懇談が続けられました。

今回の懇親会に特別ゲストとして函館から参加された写真家の野戸崇治さんは「函館の古い写真を発掘し、現在の函館の姿とを比較した写真を撮影している。また、はこだて外国人居留地研究会を主宰して〝150枚の画像が語る幕末・明治の国際都市ハコダテ〟と題した写真誌を発刊した。今日は、壁一面を使って明治25年当時のパノラマ写真を掲示したので、昔の函館を懐かしんでいただきたい」と、自己紹介とあいさつをされました。

今年のアトラクションは、現役の芸者さんとして活躍されている安保咲子さんが「向島名所」と題した踊りを優雅に舞い、皆さんから大きな拍手を浴びていました。また、歌手の池田さなえさんは、持ち歌の〝函館ステップ〟と〝函館夜景〟を熱唱し、盛んな声援が贈られていました。

安保咲子さん

午後1時50分過ぎには、会場内一杯に拡がって、懐かしい〝港おどり〟を皆さんで輪になって踊りました。そして、午後2時30分頃、〝青春時代〟を〝函館時代〟と替えた歌を皆さんで合唱しました。この後、北海道道南会の応援団長の高橋順吉さんと川瀬俊吉幹事が音頭を取って、北海道道南会へエールを贈りました。

池田さなえさん

午後3時過ぎに、三村寿雄副会長が、「次回は、来年2月6日（土）の新年総会・懇親会。多くの皆さんにご参集いただきたい」と中締めの言葉を述べた後、音頭を取って、三本締めを行って会を終了しました。

なお、皆さんには、お土産としてサッポロビール提供の〝サッポロプラス・ノンアルコールビール〟が手渡されました。

新入会員紹介

（　）内は出身小学校

◆折田信一（南茅部町木直小）
ホームページを見て

◆佐藤　昇（函館市立弥生小）
薬袋泰会長の紹介

◆続　好子（横浜市立磯子小）
続薫常任幹事の奥様

◆松浦紀子（函館市立柏野小）
ホームページを見て

◆水木昭弘（函館市愛宕中）
薬袋泰の紹介

◆山平匡人（函館市立弥生小）
ホームページを見て

◆米谷恵子（函館市立駒場小）
田辺鶴瑛さんの紹介

平成27年度 夏季懇親会出席者

【来賓】

※サッポロビール広域営業本部
法人統括部専任部長　石井直己

【参加者】

安達昌子、安保咲子、池田さなえ、石戸六男、泉龍夫、今井雅子、岩倉弘晃、奥野政博、小野寺和行、折田信一、笠川雅彦、金子公彦、金子忠雄、川瀬俊吉、川守田孝平、川守田礼子、菊池紀邦、帰山武志、久慈佐津子、桑田節子、郷内繁、小崎みつる、小島幸子、小林智恵子、小林寅雄、小山敦子、小山和彦、佐々木俊克、佐藤昇、沢株尚子、沢株正始、汐谷進、柴田孝、島田瑞子、嶋村悦子、白川正広、新谷義克、神れい子、末永昌子、菅原大作、杉澤順一、須藤珠実、砂山和義、染木トシ、高木清子、高橋厚子、高橋順吉、竹澤秀昭、千歳芳光、続薫、続好子、照井陽子、富岡信夫、中川和彦、長島康、納代鉄也、楢木久澄、成田きよえ、成田慶子、新山春一、沼崎貞良、沼崎茂子、根来美和子、野口晴雄、濱光則、比嘉裕子、東川正秀、東川満子、檜森兄元、福地史人、古井勝春、本間和吉、松田州平、松田昇、松村茂、水木昭弘、薬袋泰、南谷光一、三村寿雄、向山慶宗則、森英爾、森本貞子、森有意、柳下五百子、山木和子、山手章、山平匡人、山本久子、山田克明、米谷恵子、渡部良孝、和田秀志
特別ゲスト・野戸崇治

訃報

宮下　正さん
平成27年4月　死去
78歳

謹んでご冥福をお祈りします。

同窓会の活動状況

◆函館工業高校同窓会
10月17日（土）
ホテルラングウッド
参加者　85人

◆幸小学校同窓会
10月24日（土）
銀座アスター
ベルシーヌ竹芝店
参加者　17人

◆常盤小学校同窓会
10月31日（土）
東海大学校友会
参加者　13人

◆白楊ケ丘同窓会東京支部
第39回親睦大会
（函館市中部高校同窓会）
11月14日（土）
グランドアーク半蔵門
参加者　176人

◆東京千代岱第9回総会
（函館市立
千代岱小学校同窓会）
11月28日（土）
参加者　9人

◆遺愛女子高校同窓会
12月4日（金）
アイビーホール青学会館
参加者　172人

道南会行事報告

☆真夏の暑気払いの会

7月25日（土）正午より港区新橋のビヤダイニングライオン汐留店（旧新橋停車場内）で、36人が参加して行われました。

この日の東京は、気温が35度以上の快晴の猛暑日。正に暑気払いには絶好の日和でした。三村寿雄副会長の司会で、最初に薬袋泰会長が「ビールで喉を潤すには最適な一日。暑さを吹き飛ばすように楽しい一時を過ごしましょう」とあいさつ。そして、川守田孝平孝平相談役が音頭を取って、ビールグラスを掲げて乾杯し、懇談に入りました。会には、皆日頃顔馴染みの会員ばかりなので、すぐに打ち解けた雰囲気の中で和気あいあいで会話が弾んでいました。

この日のテーブルには、魚介類やソーセージ、肉などのコース料理に舌鼓を打ちながら、ビールやワイン、焼酎などのアルコール類やジュースなども飲み放題ということで、大いに飲み交わしていました。また、お互いの夏休みの予定や来年3月に新函館北斗駅まで延伸される北海道新幹線などを話題に盛り上がっていました。

なお、この日の会のために小助川昭一さんが、函館の谷地頭電停の前にある和菓子のお店・市中屋から取り寄せた「べこ餅」が皆さんに配られました。5月30日と6月13日の2週に渡って放映されたNHKの番組「ブラタモリ」では、函館の現在を、北海道新幹線の工事現場や青函連絡船記念館・摩周丸、坂、函館山要塞、夜景など様々な角度から紹介していましたが、6月13日に放映された中で、この「べこ餅」が取り上げられていました。小助川さんは、昔お菓子屋さんの近所に住んでおられたということで、ひときわ懐かしく感じられたとのことでした。

皆さんお互いに話しがつきないようでしたが、午後3時過ぎに、全員で記念撮影をして散会しました。

☆浅草ジャズフェスティバル

浅草おかみさん会主催の第29回ジャズフェスティバル公演が浅草公会堂で開催され、道南会では今年も8月26日（火）に35人が参加して、トーマスフィッシャーが率いるニューオリンズジャズオールスターズと日本の新谷健介オノマトペの演奏を楽しみました。

☆「27年度夏季懇親会」（別掲）

9月5日（土）
午後0時開催
荒川区東日暮里
ホテルラングウッド

☆小石川後楽園で紅葉狩り

11月24日（火）午前11時30分、東京都文京区後楽の小石川後楽園西口に集合。入場券を配布して園内に入った後、それぞれのグループに別れて、広い園内を思い思いに散策しました。この日は、前日の雨を覆す好天に恵まれ絶好の暖かい庭園散策日和となりました。

小石川後楽園は、江戸時代の初期、寛永6年（1629年）に水戸徳川家の祖である頼房が、その中屋敷（のちに上屋敷となる）として造ったもので二代藩主光圀の代に完成した庭園。庭園の様式は池を中心にした回遊式築山泉水庭園。光圀は、造成に当たり、明の遺臣朱舜水の意見を用い、円月橋、西湖堤など中国の風物を取り入れ、園名も朱舜水の命名によるなど中国趣味豊かな庭園。後楽園の名は、中国の范仲淹「岳陽楼記」の「天下の憂いに先立って憂い、天下の楽しみに後れて楽しむから名付けられました。園内は、蓬莱島を中心とした大泉水、西湖・渡月橋・大堀川・通天橋を結ぶ川の風景、清水観音堂・小廬山・得仁堂・円月橋をつなぐ山中の風景、稲田・菖蒲田・松原などの田園の風景、の海、川、山、野を表した大きく四つの風景が独立しつつも精細に組み合わされており、四季折々の花などが楽しめる憩いの場です。イロハ紅葉は5～6分程の色づきでしたが、小春日和の温かい日差しの中を40分程、イチョウ・ハゼノキ・ケヤキなどの紅（黄）葉の絶景を観賞し、その後、庭園入り口の茶屋風な店構えの昼食会場「涵徳亭」へ移動しました。

涵徳亭では、庭園をパノラマ状に見わたせる貸し切りの広間で、4テーブルに分かれて、薬袋会長の挨拶と乾杯の音頭で、久しぶりの懇親会となりました。

各テーブルでは、ふるさとの思い出話しや近況などの会話で和やかな交流ができたようです。午後3時、やや、ほろ酔い気分と満腹になったところで、全員で記念撮影をして自由解散としましたが、笑顔の絶えない楽しい一日を過ごしました。参加者32人。

編集後記

◎昨年9月19日（土）の朝日新聞別刷「be」に、「一度は眺めてみたい日本の夜景ランキング」が載っていました。全国約1500人の夜景愛好家でつくる「夜景倶楽部」が認定する「新日本三大夜景・夜景100選」で、2位以下を大きく引き離して函館山が見事1位となっていました。

◎津軽海峡に突き出た函館山は、元々は海中から噴出した火山島で、市街地とは砂州でつながっている。そしてそこからの夜景の美しさは、明治以降の歴史抜きには語れない。街を何度となく襲った大火を教訓に、海岸線に続く真っすぐな道が整備された。また、終戦まで函館山が海峡警備の要塞として使われたことから、周囲を一望できるように尾根が削られた、と解説されています。

◎仏ミシェランガイドが三つ星をつけた函館山の夜景を北海道新幹線の開業と合わせて魅力を全国に一層発信したいものです。

会報「道南」
28年・新年号・通巻63号
発行　平成28年1月1日
発行所　北海道道南会事務局
茨城県取手市西
1-6-C-907
薬袋　気付
印刷所　富士製版印刷㈱
世田谷区下馬4-17-17